

目指す学校像	○生徒と教師の笑顔があふれる学校	○居場所のある学校
--------	------------------	-----------

重点目標	1 ICTを最大限に活用した「個別最適な学び」の実現と学力向上 2 実生活や実社会、今後の未来社会に対しての最適解を見出す力の育成 3 地域を大切に、地域と共に成長し、地域に貢献できる生徒の育成 4 安心・安全な学校づくりのための教育相談体制の充実 5 生徒と教師が笑顔でいられる学校づくりのための工夫
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標					年度評価		実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、国語・数学共に全国平均とほぼ同じか上回っている。しかし、国語については市平均を若干下回っている。 ○本校独自の「生活と学習に関するアンケート」において、学習面に関しては「話を集中して聞くことができる方だと思う。」「授業で分かった、できたを実感できていると思う」で肯定的な回答が多い。 (課題) ○本校独自の「生活と学習に関するアンケート」において、学習面に関しては「積極的に質問や意見が言える方だと思う」という項目が、他の項目と比べると低い傾向がある。	「個別最適な学び」の実現	・GIGAスクール構想で整ったICTのインフラを最大限に活用し、生徒一人ひとりが授業に積極的に関わっていきけるような展開の工夫を行う	・授業内で、既習事項を確認する問題演習や単元別小テスト等を繰り返し行うこと等、教師それぞれがたてた学習に関する目標について、全員b評価以上となったか。				
		アクティブラーニング型授業展開の工夫	・授業の中で積極的に質問や意見が言えるよう、よい授業4つの因子「授業マネジメント」「基礎UP」「授業スキル」「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業展開の工夫を行う	・よい授業アンケートにおいて、4つの因子すべての学校平均のポイントが上昇となったか。 ・特に「アクティブ・ラーニング」の項目の上昇が他の項目より大きくなったか。				
2	(現状及び課題) ○令和4年度から新たに総合的な学習の時間に設けられた「STEAMS TIME」について授業を進め、本校としての取組内容の実践及び研究を深める必要がある。 ○既にSDGsについては、取組実績を重ねているところだが、より積極的な取組を通して、持続可能な社会の創造に向けた生徒の意識を高めたい。	より効果的なSTEAMS TIMEの創出	・現在取り組んでいるSTEAMS TIMEの内容について、次年度に向けて成果と課題を明らかにしていく。	・本校で取り組んでいるSTEAMS TIMEの取組内容について、次年度に向けての成果と課題を明らかにできたか。				
		より積極的なSDGsへの取組の具体化	・SDGsについてのより発展的な取組の形を研究し、実践する。	・SDGsに関する発展的な取組の形を実践することができたか。				
3	(現状) ○昨年度、学校運営協議会を立ち上げ、紙上意見交換ではあったが、コミュニティ・スクールとして目指すべき生徒像を決定することができた。 (課題) ○コミュニティ・スクールを実質の伴うものにするために、学校運営協議会において、実際の課題を率直に提示し、意見をいただく必要があるとともに、そこで話し合われた内容について、積極的に情報発信を行う必要がある。	地域と関わる方向性の検討	・年度内3回行われる学校運営協議会において、次年度以降、学校が地域とどのように関わっているかについて意見を交わし合う。	・次年度以降の関わり方について、何らかの方向性が出されたか。				
		課題解決のための話し合い及び情報発信	・学校運営協議会において、課題解決のための実質的な意見交換することと併せて、そこで話し合われた内容についての情報発信のための通信を、その都度発行する。	・課題解決のための話し合いで意見交換を行うことができたか。 ・コミュニティ・スクール通信を学校運営協議会後、毎回発行することができたか。				
4	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の項目に対しての肯定的な回答が、全国・県を10ポイント以上、上回った。 ○さわやか相談室を補完する場所として、昨年度からコミュニティ・ルームを活用し始めたことで、一定程度の成果が出ている。 (課題) ○なかなかコロナ禍から抜け出せない不安定な現状の中、生徒の個々の状況を把握し、組織的に支えることで、多くの生徒の居場所づくりが必要である。	生徒の学校生活への満足度	・生徒の小さな変化を見逃さず、気づいたことについては、他の職員と情報共有を行う。 ・必要に応じて学年会、教育相談部会、生活向上部会で対応方法について随時検討する。 ・コミュニティ・ルームを利用している生徒たちの様子について、担任を中心に状況を把握する。	・年度末の学校評価において、「学校生活は楽しく充実している」の項目の生徒の肯定的回答が95%以上になっているか。(昨年度95%)				
		職員の働きやすい職場づくり(職員の笑顔が生徒の笑顔につながる)	・校内に整備されているICTのインフラを活用し、効率的な作業方法等について、小さなことでもよいので、それぞれの視点で発信する素地を作っていく。 ・がんばってくれている職員にねぎらいの言葉を掛け合えるような、あたたかな職場づくりを心掛けていく。	・年度末の学校評価において「職員相互の協力体制は十分であったか」の項目の肯定的な回答が96%以上となったか。 ・同評価において「分掌の分担は職員相互でバランスがとれていたか」の項目の肯定的な回答が70%以上となったか。				
5	(現状) ○生徒の笑顔は、教師が笑顔で働ける職場でこそ生まれるとの考えに立ち、教員が働きやすい環境づくりを重点的に進めたい。昨年度の学校評価では「職員相互の協力体制は十分であったか」において肯定的な回答は96%であった。 (課題) ○昨年度の学校評価では、「分掌の分担は職員相互でバランスがとれていたか」においての肯定的な回答は62%であり、改善が必要である。							